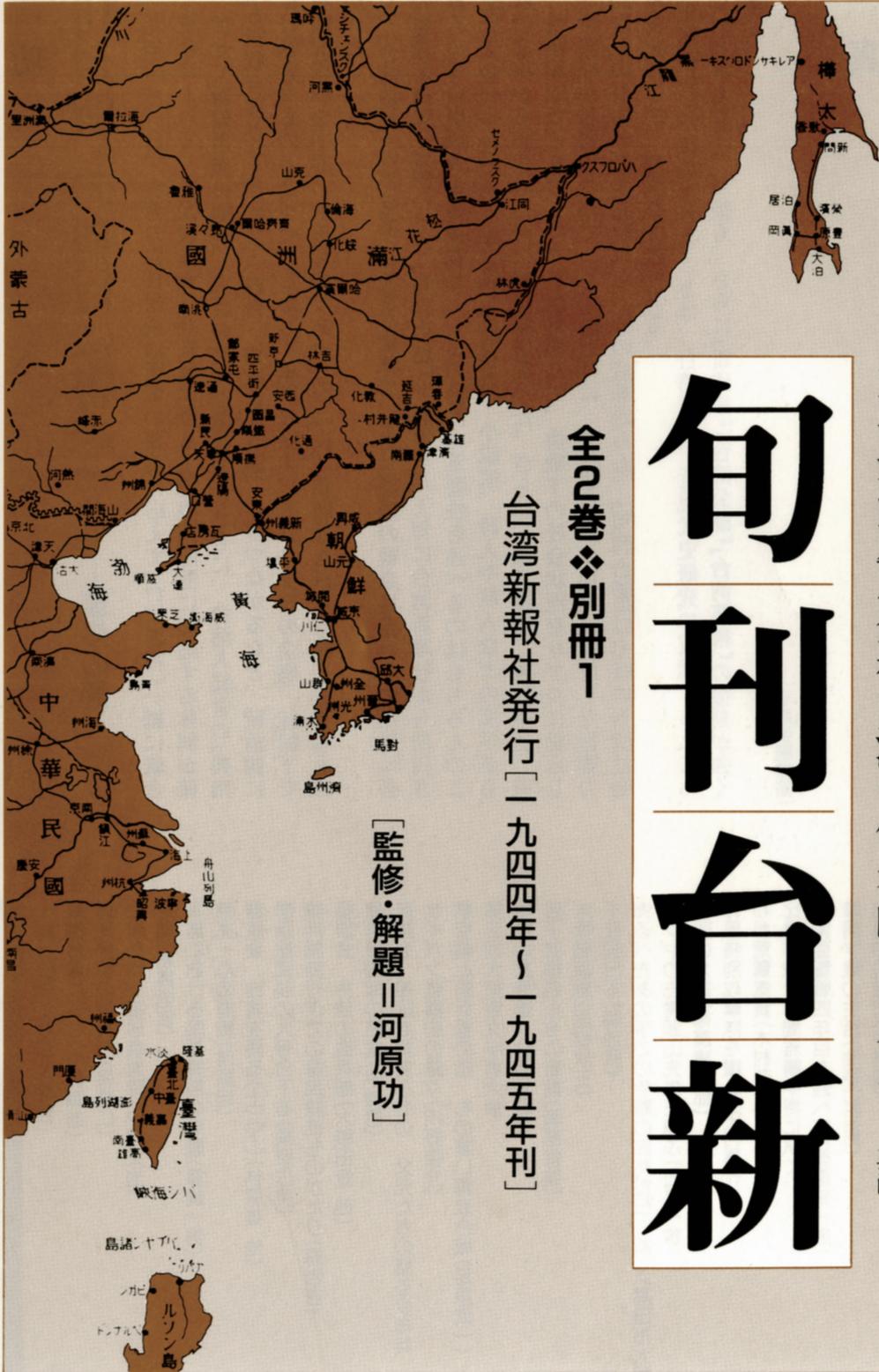


復刻版



日本植民地文化運動資料 12

太平洋戦争末期台湾の代表的プロパガンダ誌！

旬刊台新

全2巻◆別冊1

台湾新報社発行「一九四四年」一九四五年刊」

〔監修・解題〕河原功

緑蔭書房

河原 功

『旬刊台新』の刊行に寄せて

— 監修の辞 —

昭和一九年四月一日、台湾の六日刊紙は国策の要請に依りて『台湾新報』一紙に統合された。統合によつて、紙面製作から経営面に至るまで戦闘配置に即応する体制が確立して、併せて新聞用紙の節約、人員の整理が図れるとともに、台湾人経営の『興南新聞』をも吸収合併させることで『内台一如政策の前進』にもつながるなど、統治側にとっては好都合なものとなった。しかし、紙面の減少、それに夕刊の全廃、統制下での記事が戦況報告を中心とするものであっただけに、新聞社も読者も満足できるものではなかった。

そこで、『台湾新報』の不足部分を補う意味で、また「国民の戦意培養とその昂揚」「必胜信念の推進と確保」を狙つて、『旬刊台新』が同年七月下旬に台湾新報社から創刊された。軍人や総督府役人が南進基地としての台湾の重要性を述べるのはもちろんのこと、台北帝大教授をはじめとする教育関係者、小説家、詩人や歌人などの文学者も、それぞれの立場から戦争協力のために筆を執った。さらに、徴兵検査、軍隊生活、戦闘場面、生産場面などを写したグラフもあつて、決戦下の社会状況をリアルに提示している。新聞社から刊行されていた雑誌だけに、『旬刊台新』が民衆に及ぼした影響力には多大なものがあつたと思われる。その意味からも、『旬刊台新』は当時の台湾社会や時代精神を知るに、貴重な文献である。

その『旬刊台新』が復刻されることは、台湾研究、近現代史研究に貢献するところ、少なくないと言えよう。今後、さらに『新建設』『台湾公論』『台湾芸術』の復刻が強く待たれる。

〔成蹊学園教諭〕

川島 真

台湾研究の新たなフィールドを拓く史料

『旬刊台新』は、昭和一九年に刊行された一種の国策宣伝雑誌である。当時の台湾では、この雑誌の発行母体である『台湾新報』が、基本的に唯一の新聞であつた。言論の統制、資源の節約などを目的とした御用新聞の刊行は、既に近代的な「読者」となつて

収録記事(抜粋)

一般(時論・座談・報告)

要塞台湾に望む(小林躋造)

島民待望の徴兵制(張尊仁)

金鶏勲章と高砂義勇隊(中村文治)

疎開(新島信宏)

本島における国民徴用の問題(篠崎一男)

億兆一心の時機(幣原坦)

鼎談会 台湾を語る(上)(下)(林房雄 他)

拳島総武装の大号令(栗原広美)

徴兵制施行までの皇民錬成ものがたり(森岩吉)

座談会 待望の徴兵制(大根田登 他)

義勇報国隊の結成(中村哲)

座談会 祖国を背負ふもの 父兄たちの語る少年兵

サイパン戦直前の島々(川野啓介)

航空戦と新兵器の話 もの凄い電波合戦(足原武一)

第三回大東亜文学者大会

本島の女性達へ(真杉静枝)

男子就業禁止令の意義(満富俊美)

大陸戦線戦(里村欣三)

不征国日本(菊池寛)

怖るべきあの手この手敵の謀略宣伝を衝く(高田市太郎)

アジアの先覚頭山先生を憶ふ(古島一雄)

米国の大罪(徳富猪一郎)

神風特別攻撃隊を讃ふ(中村喜代三)

わが荒鷲気質(木村莊十)

比島作戦を本間雅晴中将に訊く

大東亜聖戦四年目を迎へて(徳富猪一郎)

疎開児童の生活(池野辺忠男)

比島沖海戦記(中島誠)

海軍伝統の精神を長谷川総督に訊く(伊藤金次郎)

本島同胞に対する政治的社会的処遇の改善(呉金鍊)

職域に働く心構へ(河田烈)

国語の習熟を語る(林茂生 他)

本島内の食糧態勢(松野孝一)

基地で見た航空隊員の横顔(大林清 他)

グラフィック

農民川東所の一日

いた台湾の人々の不満につながったのであろう。「紙は兵器である。・・・時局の認識と士気の昂揚に視する一面、苛烈極まる世相に、『ゆとり』と清明健□の娯楽を贈ることこそ、紙と活字に××託された戦争生活の分□であらねばならぬ。この使命に徹して、本社は新に、『旬刊台新』を創刊するものである。『旬刊台新』の創刊に際して、『台湾新報』にこのような宣伝文が掲載されている。戦争生活下での娯楽を提供することが一つの刊行目的であった。こうした方針を反映して、この雑誌には、国策宣伝的な文章のほかにも、随筆や写真が豊富に含まれている。そのまま読み物として読んでも、戦争末期の台湾の状況をモノクロではなく、色づけして把握する好史料となろう。学問的な面からみても、政治思想的な観点からの宣伝言説研究や戦時期の文学研究に役立つことは明白である。また、多様な「グラフ」などから当時の世相、風俗を知ることができ、社会史研究にとっても有用であろう。台湾史研究、あるいは日本植民地研究において、戦争末期がまだまだ解明が進んでいない時期であることを考慮すれば、本史料の公刊は、まさにこの時期の研究を進展させていくうえでの契機ともなろう。戦争末期には、この『旬刊台新』のほかにも、皇民奉公会の出していた『新建設』や台湾時報社の『速報雑誌』などの雑誌が刊行されていた。今回の『旬刊台新』の公刊は、戦争末期というフィールドを新たに拓くことになる。他の雑誌ともども、大いに利用される基礎史料となることであろう。

〔北海道大学法学部助教〕

呉密察

「大東亜戦争」末期の植民地台湾を理解する貴重な資料

一九四二年一〇月に創刊された皇民奉公会『新建設』と一九四四年七月に創刊された台湾新報社『旬刊台新』は、あの「大東亜戦争」の時代における台湾の重要な国策宣伝雑誌であり、それによって当時の時代気分を理解することが可能な貴重な手掛かりといえる。

戦局の緊迫化に伴って、日本帝国の窮状は内地でも外地(植民地)でも一挙に露呈されることになった。一九四四年、植民地台湾で創刊された『旬刊台新』はそうした日本帝国の最終段階ともいべき困窮した様子をあらゆる方面から伝えている。雑誌に使用されている紙質は悪く、物資の極端な欠乏を物語っている。文面には「要塞台湾」、「総決起」、「国民動員」、「食糧増産」、「戦場態勢」、「疎開」、「皇民錬成」、「聖戦」などといった言葉が次々に現れ、緊迫した戦況がありありと感ぜられる。また、毎号写真の形で掲載される「戦争」、「増産」、「奉公」のイメージがより刺激的な視覚効果を与えてい

皇民訓練所の一日
台湾神社の御改称

鍛へる予科練

決戦下の女学生

挺身する学徒

待望の軍隊生活

錬成する高砂族青年

皆兵への感激

写真で知る兵隊生活

少年兵特輯

この職場は女の手で男子に就業禁止令

戦果にこたへて白金続々出陣

来襲敵機の末路

救護は私達で 本島の女性総蹴起

疎開の子らは元気です

今年も勝ち抜きぞ

頑張れ女輸送戦士

待望の「徴兵検査」

任務は重し少年重砲兵

君と僕も甲種合格 本島初の徴兵検査

我らも特攻隊

小説

たそがれ(坂口禰子)

幾山河(西川満)

若い海(龍瑛宗)

月来香(一)〜(八)(庄司総一)

「護郷兵」前後(一)〜(二二)(久保田正衛)

此の手、此の足(新垣宏一)

山を出づるとき(堤千代)

悪魔の使徒(周金波)

碧霞(楊雲萍)

随筆・随想

解剖と文化(森於菟)

風目魚(山中樵)

鬼畜の妄執(武者小路実篤)

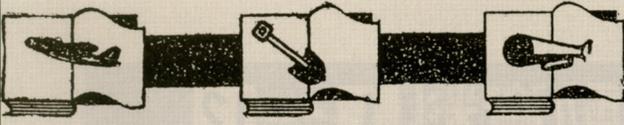
空(窪川稻子)

検事開業(植松正)

軍人となれぬ悲哀(三巻春楓)

勝利の鍵(中山ちる)

てにをは教育(周金波)



次 目

表紙	宮田 晴光
創刊の言葉	伊藤金次郎 (3)
要義臺灣に望む	小林 爾造 (4)
太平洋戦局	高橋 五郎 (6)
歐洲戦局の動き	森 正蔵 (8)
六六六十萬の總進軍	(10)
待望の徴兵制	(11)
創刊記念懸賞募集	(39)
隨筆	
解剖と文化	森 於菀 (12)
師の題召に思ふ	黄氏即委 (13)
閩 隴 帳	樂滿 金次 (14)
— グラフ —	
南海の精銳	(15)
關ふ農民訓練所	(16)
臺灣神宮	(18)
金鶏勳章と高砂義勇隊	中村 文治 (19)
成長した臺灣學徒兵	(20)
空中撮影の勞苦	木間 金資 (22)
實話、手紙と兵隊	鶴丸 詩光 (24)
新作映畫 軍歌天街道	(23)
短歌、俳句、川柳	(24)
小説 たそがれ	坂口 梧子 (26)
	伊吹兵五衛 (26)

葉 言 の 刊 創

郎 次 金 藤 伊 筆 主 社 報 新 臺 臺

臺灣新報を母體とするわが「旬刊臺新」は、本日、こゝに雄々しく發足した。

およそ、戦時下における出版物が、如何にあるべきかは、識者の判断を待つまでもなく、その要は出版物を通じ、國民をして彌やが上に戦意を昂揚せしめ、必勝信念の推進と確保の一點に歸一する。

世上、新聞は勿論、戦時下の各出版物を目して、紙の彈丸、活字の砲壘と呼稱するものもある所以であるが、わが「旬刊臺新」發刊の意圖もまた斷じてその線列外のものではない。

戦争の現段階を直視するに、敵の反撃と侵襲はいよいよ凄愴激烈となり、皇軍將兵諸君の勇武、精進、もとより、隨處隨時、これを粉碎しつゝあるけれども、われらの信念とする「絕對勝利確保」の前途には、なほ多くの苦難と荆棘の横はりあるを覚悟すべきである。

そして、われら一億國民は、崇高峻嚴なるわが統帥面前に對し、絕對的信頼を拂ひ、銃を執る執らぬの如何に拘はらず、一齊にその廣義の戦列に参加し、職域奉公に無條件的

全力を發揮しつゝあるのであるが、萬一、國民の中に、戦局の一斷面乃至現象の一時の起伏動向を見て一喜一憂一甚だしきに至つては、戦争の前途に一抹の不安と焦燥を抱くが如きものありしたら、國民總意にもとづく戦意結集と昂揚の面において、甚だ芳しくないのである。これ、呪ふべき敗戦思想といはざるまでも、非違なるもの「撃ちてしまむ」といふわが建國理念を相距ること、遙かに遠い。

即ち、われらは、斷乎、これらの不安焦燥家に對し、鐵鞭一打、その奮起を促さざるを得ない。

要するに、戦争は百年の長期を覚悟し、局面はますます深刻激烈を避け難しと思念するとき、われら一億國民の戦意培養とその昂揚及びそれらのもたらす物心兩面の戦力増強を絕對に必要なりと絶叫する。

けれども、戦ふ國民は、結々たる餘裕の下、常に健全と明朗と共にあれ。そして、こゝに發足したわが「旬刊臺新」は、健全と明朗を基調とした精神養種を不斷に各位の胸臆に挿げん念願である。かくして、幾下でも現下國家意欲に貢獻するものあれば、われらは誠にこれを幸福とする。

る。さらに、雑誌の裏表紙にある「回覧順」が、こうした宣伝雑誌の当時における流通の一面を伺わせている。

あの「大東亜戦争」末期、植民地台湾の時代の雰囲気が、この「旬刊台新」を通じて、現代を生きる我々の眼前にまるで昨日の事のようにはつきりと浮かび上がってくるのである。

「台湾大学歴史系副教授」

大 巨 は あ さ ん (西川 滿)

詩・短歌

大八洲国の崎々(折口信夫)

敵機空襲何ものぞ(西川滿)

真珠要塞(火野葦平)

猛撃(斎藤茂吉)

- 阿川蕪城(俳人)
- 安藤正次(台北市大総長)
- 伊藤金次郎(台湾新報社主筆)
- 今村学郎(學術研究会議委員)
- 岩田専太郎
- 植松正(台北帝大教授)
- 宇治春栄子(歌人)
- 大妻コタ子(大妻高等女学校校長)
- 大林清(作家)
- 折口信夫
- 金関文夫(台北帝大教授)
- 河田烈(台拓社長)
- 菊地寛
- 城戸又一(毎日新聞論說委員)
- 窪川梧子(作家)
- 久保田正衛(作家)
- 小泉信三(内閣顧問)
- 国分直一(台湾民俗研究者)
- 小林爾造(前台湾總督)
- 小林土志郎(作家)
- 斎藤茂吉
- 坂口梧子(作家)
- 佐藤春夫
- 幣原坦(前台北帝大総長)
- 周金波(作家)
- 庄司総一(作家)
- 高田保馬(民族研究所長)
- 坪田讓治
- 戸川貞雄(日本文学報国会理事)
- 徳富猪一郎
- 富塚清(東大教授)
- 中井良太郎(陸軍中将)
- 陳春徳(洋画家)
- 中山次徳(作家)
- 西川滿(作家)
- 根津静子(挿画家)
- 林房雄(作家)
- 火野葦平(詩人)
- 真杉静枝
- 向井潤吉(報道班員)
- 武者小路実篤
- 森於菀(台北帝大教授)
- 矢野峰人(文学博士)
- 山中樵(朝鮮總督府図書館長)
- 楊雲萍(民俗研究者)
- 李香蘭
- 龍瑛宗
- 横光利一(作家)

植民地満洲の学術・出版の実相を克明に記録、昭和激動期の文化状況を伝える総合書評誌／

1 書香

全8巻・別冊1 満鉄大連図書館編
大正14年4月↓昭和19年12月刊 全168冊
解題 稲村徹元 本体価格140,000円

満洲文芸、北方文化に関する貴重な記事・作品、文献・資料を紹介した総合文化誌／

2 北窓

全5巻・別冊1 満鉄哈爾濱図書館編
昭和14年5月↓昭和19年3月刊 全26冊
解題 西原和海 本体価格80,000円

満洲史、清朝史、対露交渉史など質の高い研究論文を多数所収。東北アジア史研究に必須／

3 收書月報

全8巻・別冊1 満鉄奉天図書館編
昭和11年2月↓昭和18年9月刊 全91冊
解題 小黒浩司 本体価格132,000円

満洲文化の向上を企図して刊行された唯一の読書雑誌／

4 満洲讀書新報

全2巻・別冊1 満洲讀書同好会編
昭和11年1月↓昭和20年4月刊 全95冊
解題 西原和海 本体価格40,000円

日本植民地最大にして戦前では日本最大の図書館報。待望の完全復刻版／

5 文獻報國

全12巻・別冊1 朝鮮總督府図書館編
昭和10年10月↓昭和19年12月刊 全12冊
解題 藤田豊 本体価格240,000円

日中戦争期の中国研究に欠けていた学術・文化史的側面の資料を埋める貴重な記録／

6 中國文化情報

全6巻・別冊1 上海自然科学研究所編
昭和12年5月↓昭和16年12月刊 全31冊
解題 阿部洋 本体価格108,000円

日本帝国主义による「満洲国」支配の実態と「協和会」の全容解明に久しく待たれた第一級史料／

7 協和運動

全20巻・別冊1 満洲帝国協和会編
昭和14年6月↓昭和20年4月刊 全68冊
解題 風間秀人 本体価格400,000円

朝鮮における皇民化・内鮮一体を促進し、總督府の文化統治政策を担った聯盟の機関誌／

8 総動員

全4巻・別冊1 国民精神總動員朝鮮聯盟編
昭和14年6月↓昭和15年12月刊 全19冊
解題 宮田節子 本体価格72,000円

内鮮一体の融和を標榜する一九二〇年代の朝鮮統治に批判的な論陣を張った稀有な雑誌／

9 朝鮮時論

全2巻・別冊1 朝鮮時論社編
大正15年6月↓昭和2年9月刊 全10冊
解題 高柳俊男 本体価格38,000円

満洲及び日本植民地下の放送事業の全体像を知ることのできる貴重な年鑑／

10 満洲放送年鑑

全2巻 満洲電信電話株式会社編
昭和14年版・昭和15年版 全2冊
解題 北山節郎 本体価格36,000円

戦時下、朝鮮最大の文芸雑誌。日本近代文学の暗部を照らす「植民地文学」の第一級資料／

11 國民文學

全12巻・別冊1 人文社編
昭和16年11月↓昭和20年5月刊 全39冊
解題 大村益夫 本体価格228,000円

太平洋戦争末期台湾の代表的「ロバガン」誌。当時の台湾社会や時代精神を知る貴重な雑誌／

12 旬刊台新

全2巻・別冊1 台湾新報社編
昭和19年7月↓昭和20年2月刊 全22冊
解題 河原功 本体価格48,000円

日本植民地文化運動資料 12

当時の台湾社会や時代精神を知る貴重な雑誌

復刊版

旬刊台新

台湾新報社発行「一九四四年〜一九四五年刊 全22冊」

監修・解題 河原功「成蹊学園教諭」

推薦 川島真「北海道大学法学部助教授」

吳密察「台湾大学歴史系副教授」

体裁 全2巻・別冊1

B5判・上製クロス装／総812頁

揃定価 本体価格48,000円

ISBN4-89774-024-X C3030



次回刊行予定

「日本植民地文化運動資料13」

戦時下台湾の皇民化運動を指導した
皇民奉行会の機関誌

新建設

復刊版

皇民奉公会中央本部発行

全4巻・別冊1

昭和17年10月〜昭和20年4月刊〔全29冊〕

監修 近藤正己 解題 河原 功

体裁 B5判・上製クロス装・総約1620頁

定価 未定

緑蔭書房

東京都板橋区板橋 1-13-1

☎03(3579)5444

※表示価格は税別です

特約店